



桐川 修

奈良工業高等専門学校 教務主事

みなさんは本を読んだりテレビを見たりしているときに読み方がわからない漢字、あるいは意味のわからない単語に出くわすことがありますね。そのようなときにどうしていますか。自分なりに適当に解釈して、やり過ぎてはいないでしょうか。ちょっと面倒ですが、ぜひ辞書(辞典)を引いてほしいと思います。漢字の読みは『漢和辞典』、単語の意味は『国語辞典』ですね。辞書を引くことで漢字の知識が増え、また単語の意味を正しく理解することによって書き手や話し手の意図を正確に掴むことができるようになります。

さて、その辞書ですが、昔は紙でできたものしかありませんでしたが、最近は電子辞書というとても便利な器械があることはご存知でしょう。(スマートフォンなどでインターネットを使った辞書もありますが、ここでは電子辞書の範疇に入れておいてください。)この電子辞書の最大のメリットは、小さくて軽い本体にいくつもの辞書が入っているので、持ち運びにきわめて便利であるということがあげられます。紙の辞書は分厚くて重いため、いつもいつもカバンに入れて持ち運ぶことは難しいですが電子辞書なら大丈夫です。いま手許にある電子辞書には日本語関係では漢和辞典や国語辞典など5冊分が入っています。それ以外に英語関係では英和、和英など7冊分、ドイツ語関係では独和、和独など4冊分などなど、紙の辞書であれば机の上がいっぱいになり、またとても一度には持ち上げられないほどの冊数がわずかに数百グラムの本体の中に収められています。これがあればいつでもどこでも必要となれば調べることができます。いま電子辞書を持っている人は常に持ち歩いて、疑問が生じたときにはすぐに調べる、という習慣をつけてほしいと思います。

また、電子辞書版の英和辞典、独和辞典などでは、すべてではないにしても主要な単語についてはネイティブスピーカーによる発音を聞くことができるようになって

いますね。基本的な挨拶表現も同じくネイティブスピーカーによる発音を聞くことができます。紙の辞書では発音記号のみ、あるいはドイツ語の辞書などではカタカナによる発音表記もありますが、本物の発音を確認できるということは外国語を勉強する上でぜひとも必要なことでしょう。

さらに、日本語では『あいうえお』などの50音順、英語、ドイツ語などでは『a,b,c』などのアルファベット順を覚えていなくても直接キーボードから入力することができるので、目指す単語を簡単に引くことができる、ということも便利です。紙の辞書ではそうはいきません。『あいうえお』、『a,b,c』の順番を覚えていなければどこに調べたい単語があるのか、まったく手がかりがつかめないわけです。ただ私のような語学教師(ドイツ語を担当しています。)から見るとこれはメリットではなく、逆にデメリットではないかと思うことがあります。電子辞書ばかり使っていて50音順やアルファベットの順番が頼りなくなり、紙の辞書でひとつの単語を引くのにかえって大いに時間がかかる、ということになってしまいます。紙の辞書がすべて電子化されているわけではないので、紙の辞書を調べる必要がある場合にはこれではちょっと困りますね。

そして電子辞書の最大の欠点は一度に表示される分量がきわめて少ないということでしょう。文字サイズを最小にしても表示できるのはせいぜい20行程度です。それ以上表示させる場合は『↓』を押して画面をスクロールさせる必要があります。しかしその場合は前の行が消えてしまいます。とくに外国語の辞書はいわゆる『単語帳』とは違って、その単語の意味だけでなく発音や文法事項(たとえば変化形)、他の語との関連性(たとえばコロケーション)、そして代表的な用例など多くの情報が記述されています。それに重要な単語ほど多くのことが記述されています。電子辞書ではつねに『↓』や『↑』を押して上下にスクロールさせないと的確な訳語や正しい使用方法にたどり着くことができません。電子辞書を使って英語やドイツ語を調べている学生をみると、まったくスクロールさせず最初に画面に表示される訳語だけで済ませている人が多いようです。その点、辞書にもよりますが、中型の紙の辞書では1ページあたり百数十行、見開きで2ページ分が表示されますので、視線の移動だけで200~300行を一気に調べることができます。多くの記述の中から自分の探している意味や用法を探り当てるには紙の辞書のほうがすぐれていると思われま

す。いかがでしょう。いまでは多くの学生が電子辞書(あるいはスマートフォンを使ったネット辞書)を使って調べていますが、上で述べたような欠点を十分理解したうえで、上手に利用してほしいと思います。

